

# 「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

## 夢を描き実現できる

### たくましい人材を育成

11月に開催された中学生議会は、昨年よりもさらに進化を遂げました。それは、地域資源を見つめ直すとともに、夢を描き実現できるたくましい人材を育成しようと、本年度から導入したアントレプレナーシップスクールの成果だと思えます。江府中学校の三年生は、5つのチームに分かれ、一般社団法人「i.club(アイクラブ)」や役場の若手職員と一緒に二日間みっちり、アイデアを作り出す作法を学びました。そして、自ら考え、仲間と一緒に江府町を活性化させるための提案を練り上げ、中学生議会で発表しました。テーマは、「田植絵(たうえ)」、「空き家クリーン・リペア大作戦」、「インター「Let's 江府」」、「MIX オフイス in Life」、「奥大山天然かき氷」奥大山全部つめこみました」と、いずれもワクワクするネ



▲中学生議会の様子

ーミングです。議場では質問と併せて、アイデアがある世界と、そうでない世界を表現した寸劇(「スキット」)も見せてくれました。どの提案も斬新で、かつ、問題の核心をついていると思いましたが、現実的な話になると、解決しなければならぬ点もあります。生徒たちの意気込みを大切にしたいと思いました。昨年度の中学生議会で提案された「銀杏並木のライトアップ」のように、生徒たちが町のことを思って真剣に考えてくれたアイデアが、一つでも実現できるよう、提案してくれた生徒や、職員、関係者、そして、町のみなさんと一緒に頑張っていきたいと思えます。

# 「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム活動報告

今年度のプロジェクトチームは「自然に支え合える江府町」を目指して、専門職だけでなく、となり近所からボランティアの方々など、みんな支え、支えられるお互いさまのまちづくりに取り組んでいます。そのアドバイスをいただいているのが、公益財団法人さわやか福祉財団の高橋望さん。地域での支え合い・助け合いのしくみづくりのために、各地でその地域に合った取り組みを広げていくための活動を展開されており、江府町でも、7月28日の「支え合いのまちづくり講演会」をスタートに、11月26日には第二回のワークショップを行いました。

今回は、第一回にゲームを通して学んだ「支え合いとはどういうものか」を振り返りながら、①「住んでいる人の生の声をしっかりと把握するためにどんなことをしたらよいか」②「地域で活動を創り出していくためには、どのような人の協力があつたらよいか」この二つについて、まずは個人で考え、グループで話し合いました。①については、「集まりの中に出かける」、「一世帯ずつ訪問する」、「民生委員さんや健康推進委員さんに聞く」、「アンケートを取

る」など、②については、具体的に名前を挙げて「見守りになくてはならない人」、「技術を持っている人」また、「グループをつなげるネットワーク」などの意見が出ました。ワークショップのグループは、毎回、違うメンバーで構成されます。話をしたことがない人同士が目の中の課題に向かって思いを出し、共感し合う：考えていることは一人一人違っても、こういった話し合いや集まりをとおして「つながり」が生まれます。何かをやるうとした時、それをすぐに形にすることは難しいかもしれません。しかし、人と人、人と資源がつながっていくことで、『誰でもが、住みなれた地域で、笑顔で暮らし続ける』が実現するのではないのでしょうか。ワークショップという『語り場』から、仲間とつながる、自分の好きなことができる、自分の能力を発揮し、認めてもらえる、「ありがとう」を言ってもらえる、そんな、小さいけれど皆さんの喜びが生まれることを願って、みんなでその喜びを増やせる江府町にしていきましょう！

動画で町報こうふ!



以前の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。